

——フクロウフクちゃん森へ帰る——

「フクちゃん」(白井の自然を考える会 会報第90号)

雨戸をそっと開けると、小屋の中から丸い目が顔を直角に向けて、こちらを見ています。昨晚から預かったフクロウの「フク」です。羽を痛めていたようですが、幸いにも、大きな怪我ではないようです。



嘴のまわりをトントンと軽くたたくと、口をあけて鶏肉を食べたので、安心しました。まんまるい大きな目に、シャッターが降りる様にまぶた下がり、口を上に向けゴクリと餌を飲み込みます。

フクロウの主食は、ネズミやモグラや小鳥です。手軽な鶏肉を続けると、嘴に挟むだけで、食べなくなりました。やはり、生餌が良いかと、網を持って餌取りです。ザリガニ、ドジョウ、カエル、田螺等を与えると見事にスッと飲み込みます。中でも、ドジョウが好みのようで、一匹を与えると催促をするように、嘴をカタカタならしめます。しかも捕れません。スーパーの店頭にもなく、やむなく、ザリガニやカエルを与えました。

三日を過ぎると、日中はじっと目をつむり、おとなしくしていますが、暗くなるとガサゴソと、狭い小屋の中を飛び回ります。

六日目の朝、嘴の付け根に血がついていました。もう、限界です。却って、怪我をさせてはいけませんし、ヒトに慣れることは、フクにとって最も危険なことです。放鳥を決めました。

八日目に、保護したところへ仲間たちと返しに行きました。羽がすっかり良くなって力強く羽ばたき、林の中に帰って行きました。

翌朝の雨戸は、やはり、そっと開けました。(S)

※ 県北西部で、フクちゃんは羽を傷めて落ちているところを拾われました。千葉県環境生活部自然保護課 043-223-2107 に届けた後、里親に預けられました。

怪我をした野鳥を見つけたら、県のほか、佐倉市の県民センター等に連絡して下さい。県指定の獣医さん(無料)や鳥獣保護員を教えてください。なお、鳥類は、人間に感染する病原体を持っていることもありますから、素手で触らないで下さい。

